

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100120		
法人名	(有)長野カイゴサービス		
事業所名	桜の園グループホーム		
所在地	長野市桜新町724番地		
自己評価作成日	平成23年10月29日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所5年目になりました。「ゆったり、のんびり、にっこり」を介護サービスのコンセプトにかかげ、利用者さんに安心して毎日を過ごせるよう目指している。  
 ①協力病院と医療面での対応をしっかりと連携している。②地域との交流も芸能音楽祭や桜神社の獅子舞をとうして利用者さんにも楽しんでいただき、施設としても介護について地区の皆様と話が出来るようになってきました。③防火、防災に対しても、地区の会議に参加し、地域住民の方々にも災害時のご協力をお願いしています。  
 社員の入れ替りも多かったここ数年。このところ社員も安心して仕事に従事し意欲的に研修&資格とりに励むようになり、頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して4年が経過し、職員の定着化や良好なコミュニケーションが育ち、事業運営の充実する時期となっている。食事、入浴など介助を要する利用者が増え、介護の在り方への問い直しが必要になり、一部ハード面の改修も検討されている。グループホームにおける重度化は、どの事業所も何時かは直面する課題であり、どんな環境にも耐える介護力を身に付けることが求められてもいる。桜の園は、職員の介護に対する基本姿勢が明確になっており、重度化する利用者へ寄り添いながらの介護が始まっている。食事を始めとする三大介護や日々の利用者との接触、ケアプラン作りなど職員の前向きで真摯な姿勢があり、さらに地域と密に交流し、地域と共に暮らしをしようとする強い姿勢が感じられる。隣接病院のかかりつけ医の篤い思いによる医療面でのバックアップがあり、又、より良い暮らし作りの改修提言もあり、重度化の波の中でも明るい光が差し込んでいるように感じられる。介護困難者へのセンター方式活用による徹底したケアプラン作りと実践など利用者の暮らしを守り抜いていこうとする温かい取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念を管理者と職員が共有して日常の介護に活かすようにしています。	事業所の目指すサービスの在り方や社会的役割を明示した理念を持ち、誰でもが目に付く玄関入口の額に掲げてある。採用時やミーティング等で職員の認識の共有化を図っており、職員への浸透度が面談で確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、公民館主催の文化祭やお楽しみ会などに参加して交流を深め、グループホームを理解していただいている。	地域の一員として、地域の中で暮らすことを目指して各種行事や集いに参加すると共に事業所に来て頂くことも積極的に行っている。高齢者・子ども・地域住民が気軽に利用できる場としての「町の縁側」として事業所の多目的ホールを開放する事業も開始している。地域との温かな交流が実現できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させていただいたり地区消防団の方々と役員の方などに見学していただき理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長・民生委員をはじめ、市の担当者・近隣の地域包括支援センター長と家族会、会長をお迎えして年6回の開催を予定し、現状報告や意見交換をしている。	地域・行政・家族の参加の下、今年度は5回の開催を目指し計画、実施中である。事業所の現状報告、課題、地域への依頼などが透明性を持って行われ、委員からの質疑もあり、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者との連絡や相談は常に行い運営推進会議でも実情の報告などを行っている。	運営推進会議、実地検査、介護認定調査などを活用して行政との協力関係を築いている。連絡や相談事があれば直接出掛けて相談するなど積極的な取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開かれたグループホームを目指し、玄関の施錠はしていません。 身体拘束をしないケアとして、全職員にプリントを配布し介護に役立てています。	拘束しないケアについてのプリントを全職員に配布して、認識の共有化を図り、抑圧感の無い暮らしの支援をしている。玄関の施錠はなく、見守りや連携プレーを重視しており、地域住民の見守りや近くにある駐在所等の協力を得ながらリスクの軽減を図っている。一時離設があったが、中トビラにチャイムを付けて離設を事前に察知する効果を引き出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと、心理的虐待についても全職員が意識し注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料を職員が共有し理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の説明を理解していただき契約書や重要事項説明書をお渡ししています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換や、荘内に設置してある意見箱を活用すると共に、面会時には個別の意向もお聞きしています。	家族会や面会時に家族等の意見や思いを聞いて、運営に反映させるよう努めている。意見箱はあるが、意見等は少ない。外部評価の家族アンケートは運営を見直す良い材料になっている。	事業所からの定期的な日々の状況の報告は家族等の安心を生み出すので、定期的な報告やたよりの発行などに取り組まれることを期待したい。又、家族等は意見等を言いにくいのが一般的であるので、テーマを決めて意見を求めたり、市で行っているあんしん相談員の派遣を依頼するなどの工夫をされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案の疎通性は良く、話し合える機会もあります。	職員の意見等を聞くための特段の機会を設けていないが、管理者や職員同士のコミュニケーションは良好であり、業務中の職員の穏やかな笑顔が見られ、気持ち良く介護に携わっていることが窺えた。全員参加の職員会議は困難が多いが、ミーティングや回覧を徹底させて情報の共有化を図り、同じ立ち位置で業務にあたるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り配慮している。 家庭事情などに合わせて勤務を調節する。設備は長期に考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修に出席させたり公的援助を利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり無い。難しい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を抱えての初期段階には全職員が傾聴を心掛け、気持ちに寄り添う努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を大切にし、面接時には必ず日々の生活の様子をお伝えするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族の求めることを把握して、支援の方向を決めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の心に重すぎない介護を心掛け、共に笑い合える関係で「ゆっくり・のんびり・にっこり」と過ごしていただきたいと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の言葉から利用者を理解することも多くご家族と共にする支援を目指しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、御親戚の方々の面会もあり、それぞれの居室で過ごされたり、ホールでの生活も見えています。	少数であるが、友人や親戚が訪ねて来たり、家族の協力により外出や外泊をしながら馴染みの場所に行ったりしている。時間の経過と共に関係が希薄になるのが通例であるので、家族の理解を得ながら、事業所として出来る支援を模索中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席決めに気を配り、会話や支え合いが出来るように職員も関わり支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方は、それぞれ適切な支援や医療機関に恵まれて、その後の支援は特にしていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに寄り添う介護を心掛けていますが、不安を他利用者に暴言として表わされる方がおり根本的な解決に至っていません。	利用者調査票(基本情報)により生活歴や価値観、得意分野などを把握し、日々の会話や行動の中からもヒントを得ながら、「今、何が必要か」を理解するよう取り組んでいる。レクリエーションの在り方についても精査、検討しながら楽しみを増やす取り組みに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りと面接時の家族からのお話や日々の会話の中から生活歴などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活としての過ごし方をふまえて本人の希望に出来る限り添えるように一日の過ごし方を考えるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの介護計画を全職員で共有し、担当介護士が日々の申し送りをもとに毎月モニタリングを行い介護計画に反映しています。	アセスメントから評価・再アセスメントの経緯は様式や記録を含めて良く整備されており、月1回のモニタリング・評価も行われ、現状に即した計画になるよう見直しが行われている。利用者や家族の思いが反映されていることがサービス計画書で確認出来た。介護困難な方はセンター方式の様式に則った課題分析を行い、効果ある計画や実践が行われ、介護の成果を上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録と体調別に、排便管理や食事量、水分量など個別管理をして、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出・外泊の支援や美容院への外出などそれぞれの希望に少しでも添えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用にはまではあまり至っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力により専門医院受診者も数名おり、歯科医院は往診対応です。内科は協力病院がかかりつけ医となり不安なく行えています。	隣接する協力病院の精神科医でもあるかかりつけ医の熱意ある内科往診(日々の健康管理も含む)を土台とした医療対応があり、医療面での大きな安心感を得ている。他の診療科目は個々の医院に受診し、家族の付き添いを原則としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の服薬の分包や管理は看護師が行い、利用者への気づきに対しても職員・看護師・医師との連絡がよく取れていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報提供書などにより情報交換し、良好に行われています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在ご家族からの希望もあり重度化した利用者の介護も行っています。ご家族との話し合いは医師も交えて常に行っています。	重度化や終末期の対応は家族の希望に沿う体制になっているが、これまでに事業所でターミナルを行った事例はない。重度化対応として、平成24年4月より吸引対応などを介護福祉士が行える制度が開始されるが、その資格取得に向けて努力中であることを伺った。	重度化や終末期対応は家族にとって大きな関心事であるので、対応指針を文書化し、利用開始時などに十分に説明し、理解を求めて、同意を取られることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは、職員は理解していますが訓練にまで至っていません。担当医師に頼っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年全職員が個々に夜間火災訓練を行いました。地域の消防団による視察もお願いしました。	夜間想定訓練を全職員が数日かけて行い、さらに職員に対して「災害アンケート」を実施し、災害への認識や関心を高めると共に、実践により災害の感触を得る取り組みを行った。地域住民や消防団、隣接病院の協力を得る体制があり、スプリンクラーは近々設置予定となっていて、防災への備えが整っている。2階から外階段を利用しての避難方法などについては鋭意検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はある程度行われていると思います。 声掛けは親しみやすさを心掛けていますが尊敬する心を持った介護をしていきたいと思ます。	一人ひとりの気持ちを大切に、「ゆっくり、のんびり」をコンセプトに掲げて、尊厳や誇りの保持を心掛けて介護に携わっている。個人の書類は各階の事務室に保管され、個人情報に関する同意も家族等と取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者が、自己決定できるような声掛けにしたいと努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間に、個別配慮することもあります。その人らしさへの支援の難しさは感じています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔優先になってしまいおしゃれにまで支援の気持ちがいかないと思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は食事を共に作ることは出来なくなり食事介助の方が増えましたが、楽しみな時間となるように努力しています。	業者委託により献立作成と食材の調達が行われ、事業所で調理されている。高齢者に充分配慮されたバラエティーに富んだ献立であり、利用者に喜ばれる食事となっている。重度化により介助が必要になり、利用者が調理を手伝うことや職員が利用者と一緒に食することが出来ないが、食前に歌を歌って気分転換や嚥下の刺激をしながら安全に気持ち良く食事出来るよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量とも個別把握しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な人も含めて、9人全員が3食後に口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行不可から不安定での車イスの利用者も、介助による立位が保てるうちは、トイレ使用の支援をしています。	重度化によりおむつ使用者もいるが、尿取りパットやリハビリパンツを使いながら、トイレを利用しての排泄を介護の基本とし実践している。日々の排泄記録を土台にした排泄パターンに沿ってトイレ誘導や声掛けをして、自然で気持ち良く出来る排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理は個別に表にして行い、医師との連携により対応が来ています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回全員介助のもと個別入浴を楽しんでいただいています。重度者は2人対応で機械浴を行っています。	1人週2回、1日3人、午後、入浴を行っている。希望に応じて入浴日ではない日曜日に実施することもある。入浴剤の利用やリング湯など、楽しみとなる入浴の工夫も取り入れている。1階の機械浴と個浴との併設については改善に向けて検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に夜間対応は、個別にトイレ支援をして安全に眠れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が分かるように、個別服薬表と効能を張り出し確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意とする編み物やぬり絵など楽しみの支援をしています。 やりがいとて、洗濯物たたみ、新聞たたみ等願っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はほとんど出来ていません。 気分転換には必要と思っています。	重度化傾向にあるため、1階のユニットは近隣への日常的散歩は出来ていないが、気分転換や五感の刺激となる玄関先に出て日光浴をすることは行われている。遠出の花見や観光地へ出掛ける外出も充分に出来ていないが、近くで行う地域行事へは参加している。2階のユニットは日常的散歩は実施している。	戸外に出ることはストレス発散や五感の刺激、四季折々の変化を肌で感じる良い機会であり、これまで季節を味わいながら暮らしてきた利用者であるので戸外に出掛ける機会を多く持たれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	荘内ではお金を使うことがなく、必要品はご家族からの預かり金により使用していますので、利用者は所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話など自由に取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	足元などの危険を考え、すっきりとした空間づくりになるよう配慮し、居心地よく過ごせるようにしています。	居間兼食堂、浴室は採光も良く、トイレは十分な広さを持っている。床暖やエアコンによる冷暖房完備となっており、ソファーを利用した寛ぎの空間が出来ている。台所は居間兼食堂とは区切られているが、調理の音や匂いが感じられ暮らしの趣が醸し出されている。テレビは各利用者の好みの番組があり、テレビの時間を大切にしている。割りばしを筆代わりにして描いた作品があり、職員が工夫しながらレクリエーションに取り組んでいる姿勢と利用者の一所懸命さが感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にソファ一部分を2か所つくり、食事以外の場所をもうけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、ご家族と本人の好みになっていますので、個々に趣があります。	利用者と家族とで、思い思いの部屋作りをしている。収納ケース、机、椅子等もあり一人ひとりが自分なりの暮らしを形にしている。エアコンによる冷暖房完備で、シーツ交換や清掃(床や棚など)も定期的に行われ、清潔で居心地良い空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からトイレ・ホールなど手すりにより歩行出来るようになっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着、理念共有し介護を行っている。	事業所の目指すサービスの在り方や社会的役割を明示した理念を持ち、誰でもが目に付く玄関入口の額に掲げてある。採用時やミーティング等で職員の認識の共有化を図っており、職員への浸透度が面談で確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来4年たち、地域の方にグループホームの存在を理解していただいている。散歩の際地域の方と会話や挨拶も行っている。近所の方に行事のボランティアに来てもらっています。	地域の一員として、地域の中で暮らすことを目指して各種行事や集いに参加すると共に事業所に来て頂くことも積極的に行っている。高齢者・子ども・地域住民が気軽に利用できる場としての「町の縁側」として事業所の多目的ホールを開放する事業も開始している。地域との温かな交流が実現できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通して認知症を理解し、暖かく交流してもらおう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をしグループホームの取り組み等を理解していただいている。委員からの意見を参考にサービス向上に反映させている。	地域・行政・家族の参加の下、今年度は5回の開催を目指し計画、実施中である。事業所の現状報告、課題、地域への依頼などが透明性を持って行われ、委員からの質疑もあり、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的には、認定更新時の訪問調査の日程調整等するのみであるが、ご指導ご協力をいただきながら市の担当者と連絡を密にしていきたい。	運営推進会議、実地検査、介護認定調査などを活用して行政との協力関係を築いている。連絡や相談事があれば直接出掛けて相談するなど積極的な取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止の研修を受け、身体拘束をしないケアを全職員に共有している。	拘束しないケアについてのプリントを全職員に配布して、認識の共有化を図り、抑圧感の無い暮らしの支援をしている。玄関の施錠はなく、見守りや連携プレーを重視しており、地域住民の見守りや近くにある駐在所等の協力を得ながらリスクの軽減を図っている。一時離設があったが、中トビラにチャイムを付けて離設を事前に察知する効果を引き出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設では虐待は無いと思っている。更なる研修に参加し、防止に向け取り組んでいきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の問題は法律そのものに問題があるような気がするがもっと勉強が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の方に事前に見学や入居者との交流をとうし、安心して頂くようにしている。契約内容を説明し、確認とご家族の意向や希望を聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会の際、情報交換の機会となるよう努力をしている。「ご意見箱」をグループホーム内に設置し、意見を頂きホームの運営に反映させていきたい。	家族会や面会時に家族等の意見や思いを聞いて、運営に反映させるよう努めている。意見箱はあるが、意見等は少ない。外部評価の家族アンケートは運営を見直す良い材料になっている。	事業所からの定期的な日々の状況の報告は家族等の安心を生み出すので、定期的な報告やたよりの発行などに取り組まれることを期待したい。又、家族等は意見等を言いくいのが一般的であるので、テーマを決めて意見を求めたり、市で行っているあんしん相談員の派遣を依頼するなどの工夫をされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見も機会があるごとに取り上げて反映させています。代表者、管理者、職員は意見も言いやすく積極的な姿勢が見られます。	職員の意見等を聞くための特段の機会を設けていないが、管理者や職員同士のコミュニケーションは良好であり、業務中の職員の穏やかな笑顔が見られ、気持ち良く介護に携わっていることが窺えた。全員参加の職員会議は困難が多いが、ミーティングや回覧を徹底させて情報の共有化を図り、同じ立ち位置で業務にあたるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	色々と問題もありますが、職場環境が介護を向上させるのに大切であると思い、整備に努めます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数が少ないので、研修会への参加のときは派遣を頼んで、受けさせたいと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	更なる地域のグループホームとの交流深め、情報交換に努めたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	徐々に慣れて頂ける様に配慮し、本人の気持ちを大事に考えてゆく様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を良く聞き、家族の困りごと、心配ごと、求めている事と、本人とのギャップを把握しながら信頼関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の初期段階から「今、何が必要か」を相談の中で確認しながら「今、必要なサービス」につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の経験や知識が活かせるよう、日常生活の中で教えて貰う場面を多く持つようにしている。共に過ごす時には、支援する側、される側という意識を持たず和める場面づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の「思い」に寄り添いながら日々の暮らしの様子を共有し、本人と一緒に支えていくよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が切れないように努めています。	少数であるが、友人や親戚が訪ねて来たり、家族の協力により外出や外泊をしながら馴染みの場所に行ったりしている。時間の経過と共に関係が希薄になるのが通例であるので、家族の理解を得ながら、事業所として出来る支援を模索中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行や、レベルにより孤立する入居者が無いよう配慮している。入居者が共に助け合う関係づくりを目指していきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の都合で他の施設へ移られた方がいたが、特に家族からの相談等は無いが相談があれば大切に対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、行動の中から把握できるよう努めている。一人ひとりの思いを大切にし、ケア会議で検討し反映させている。	利用者調査票(基本情報)により生活歴や価値観、得意分野などを把握し、日々の会話や行動の中からもヒントを得ながら、「今、何が必要か」を理解するよう取り組んでいる。レクリエーションの在り方についても精査、検討しながら楽しみを増やす取り組みに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握することの意味と重要性を家族に説明し情報収集に努めている。一人ひとりの暮らしの把握に努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や生活のリズムを把握しながらケアに心がけ、一日の流れを本人の姿や言葉をとおり、記録をとるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見を聞き、計画作成者がケアプランを作成している。出来るだけ本人や家族の思い、意見を反映させるようにしている。	アセスメントから評価・再アセスメントの経緯は様式や記録を含めて良く整備されており、月1回のモニタリング・評価も行われ、現状に即した計画になるよう見直しが行われている。利用者や家族の思いが反映されていることがサービス計画書で確認出来た。介護困難な方はセンター方式の様式に則った課題分析を行い、効果ある計画や実践が行われ、介護の成果を上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録、バイタル、食事、服薬、排泄等の記録をし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく、本人や家族の変化に応じて出来るだけ応用が効くよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かして介護の内容の向上を目指しているが、難しいところがある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が隣接している為に、非常にスムーズに適切な医療を受けられています。	隣接する協力病院の精神科医でもあるかかりつけ医の熱意ある内科往診(日々の健康管理も含む)を土台とした医療対応があり、医療面での大きな安心感を得ている。他の診療科目は個々の医院に受診し、家族の付き添いを原則としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に旨く行ってはいませんが協力病院の医師が努力しカバーしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との関係は非常にうまくいっている。協力できています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だわからないことが多く、病状によって、病院に入院したりしています。	重度化や終末期の対応は家族の希望に沿う体制になっているが、これまでに事業所でターミナルを行った事例はない。重度化対応として、平成24年4月より吸引対応などを介護福祉士が行える制度が開始されるが、その資格取得に向けて努力中であることを伺った。	重度化や終末期対応は家族にとって大きな関心事であるので、対応指針を文書化し、利用開始時などに十分に説明し、理解を求めて、同意を取られることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生の対策は不十分であると思いますが、勉強し経験しながら身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難対策は夜間の場合には実際にあつた訓練が必要と考えている。	夜間想定訓練を全職員が数日かけて行い、さらに職員に対して「災害アンケート」を実施し、災害への認識や関心を高めると共に、実践により災害の感触を得る取り組みを行った。地域住民や消防団、隣接病院の協力を得る体制があり、スプリンクラーは近々設置予定となっていて、防災への備えが整っている。2階から外階段を利用しての避難方法などについては鋭意検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について常に意識し、個人情報取り扱いには気を配っています。未だ不完全で努力が必要である。	一人ひとりの気持ちを大切に、「ゆっくり、のんびり」をコンセプトに掲げて、尊厳や誇りの保持を心掛けて介護に携わっている。個人の書類は各階の事務室に保管され、個人情報に関する同意も家族等と取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に「聴く」ことを大切に考えています。上手く表現できない人には、選択してもらえるよう支援している。更なる努力が必要であると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしながら、支援していくよう配慮している。職員の都合を優先せず、入居者の生活を優先出来るケアを目指すよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの選択は基本的に本人の意向で決めている。選択困難な場合は、職員が見守りや必要に応じた支援を行っている。現在、訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであるので、楽しんでいただけるよう心掛けています。	業者委託により献立作成と食材の調達が行われ、事業所で調理されている。高齢者に充分配慮されたバラエティーに富んだ献立であり、利用者に喜ばれる食事となっている。重度化により介助が必要になり、利用者が調理を手伝うことや職員が利用者と一緒に食することが出来ないが、食前に歌を歌って気分転換や嚥下の刺激をしながら安全に気持ち良く食事出来るよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリーは十分考えており、特に水分摂取に気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食毎に声かけして行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行不可から不安定での車イスの利用者も、介助による立位が保てるうちは、トイレ使用の支援をしています。	重度化によりおむつ使用者もいるが、尿取りパットやリハビリパンツを使いながら、トイレを利用しての排泄を介護の基本とし実践している。日々の排泄記録を土台にした排泄パターンに沿ってトイレ誘導や声掛けをして、自然で気持ち良く出来る排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による心身の変化を理解し、排泄状況を把握し、スムーズな排便の為の援助を行なっている。一部難しい方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの身体的状態、習慣等にあわせて入浴を行っている。	1人週2回、1日3人、午後、入浴を行っている。希望に応じて入浴日ではない日曜日に実施することもある。入浴剤の利用やリング湯など、楽しみとなる入浴の工夫も取り入れている。1階の機械浴と個浴との併設については改善に向けて検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠は適度な運動と安心した気分、休息を昼間から配慮し、夜ゆっくり眠れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法等理解し、症状の変化に注意し確認し記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その利用者の得意とすること、喜ぶことなど活かして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を考慮し出来るだけ散歩に行っている。	重度化傾向にあるため、1階のユニットは近隣への日常的散歩は出来ていないが、気分転換や五感の刺激となる玄関先に出て日光浴をすることは行われている。遠出の花見や観光地へ出掛ける外出も充分に出来ていないが、近くで行う地域行事へは参加している。2階のユニットは日常的散歩は実施している。	戸外に出ることはストレス発散や五感の刺激、四季折々の変化を肌で感じる良い機会であり、これまで季節を味わいながら暮らしてきた利用者であるので戸外に出掛ける機会を多く持たれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は所持や使用の支援を行なっておりましたが、金銭の理解が出来なくなってきており、現在は行なっておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望者がいないまま、特には勧めていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをし、季節感を感じていただいている。廊下隅の居間には、ソファー、テーブルもあり、くつろげる空間がある。	居間兼食堂、浴室は採光も良く、トイレは十分な広さを持っている。床暖やエアコンによる冷暖房完備となっており、ソファーを利用した寛ぎの空間が出来ている。台所は居間兼食堂とは区切られているが、調理の音や匂いが感じられ暮らしの趣が醸し出されている。テレビは各利用者の好みの番組があり、テレビの時間を大切にしている。割りばしを筆代わりにして描いた作品があり、職員が工夫しながらレクリエーションに取り組んでいる姿勢と利用者的一所懸命さが感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間として廊下のはずれを少し広く工夫しており、そこに利用者同士が良く居場所として利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具等を持ち込、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	利用者と家族とで、思い思いの部屋作りをしている。収納ケース、机、椅子等もあり一人ひとりが自分なりの暮らしを形にしている。エアコンによる冷暖房完備で、シーツ交換や清掃(床や棚など)も定期的に行われ、清潔で居心地良い空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた援助をしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のプライバシーの件。</li> <li>・忙しい中での作成発送。</li> </ul>	四季折々の行事を中心に、家族だよりを発行したい。24年度から1、4、7、10月年4回としたい。写真等を入れ利用者さんの日々を見ていただく。	3～4名で編集委員会を設置して、介護者から見た利用者さんの記事を短文と写真でお伝えした。家族の方々の思いやたよりものせたい。	2ヶ月
2	49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康上の問題、歩行できる方が少なく車いす利用でも時間が無いと楽しんでいただけない。</li> </ul>	月に1回以上外出をさせてあげたい。歩行できる方は数回、天候と社員が外出できる時計画をした。	外出週間を設置し社員が動ける時間をつくり計画する。数人ずつ体調を考え施設の外におつれした。	3ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。